



*
*

ご自由にお持ちください

2024.1
第 231 号

特集

地域と医療のDX



地域と医療のDX

デジタルを活用してより良い社会へ

リウマチ・
膠原病内科医長兼DX推進室副室長
兼茅野市DX企画幹
須田 万勢 医師に
インタビュー

須田 万勢 | すだ ませい

諏訪中央病院で初期研修と後期研修修了。聖路加国際病院リウマチ膠原病センターを経て、2019年より諏訪中央病院。

DX(デジタルトランスフォーメーション・デジタル技術による変革)という言葉を頻繁に耳にするようになり、私たちの生活も少し変化しています。

今回、国のデジタル田園健康特区に指定された茅野市のDX企画幹を務めるリウマチ・膠原病内科医長の須田万勢医師に地域と医療分野におけるDXについて話を聴きました。

大事なものや本質的なことは残り続ける

——須田先生がDXに携わることになった経緯を教えてください

須田 10年後の茅野市をどう描くかという会議に病院代表で声がかかって、ヘルスケアでデジタルやデータを使う話が出た。その後スーパーシティ構想を出すことになって、スーパーシティは取れなかつたけれども、デジタル田園健康特区という特区をいただいて、構想責任者として自分が残っています。

——茅野市が医療・福祉に力を入れるのはなぜですか

須田 少子高齢化で働き手が少なくなつて高齢者が増える中で、今と同じく、それ以上の仕事がさらに複雑化していく可能性もある。例えばフレイルをどのタイミングでひっかけてデジタルで改善できるか、ある企業さんとガムでオーラルフレイルを見るっていうプロセスで、家で見守ることで病院とか施設とかに行かなくてもその人の望みを叶えられる一連の流れが、茅野市がやりたい世界ですね。

——高齢者はデジタルへの苦手意識もあると思います

須田 まずは高齢者は本当にスマートフォンを使えないのか、習う場所がないだけではということで、公民館でスマート教室をやる予定です。それで使えるようになる人は絶対いて、デジタルの恩恵を享受できる。一方で何をやってもデジタル無理ですって人に対しては、その人たちが何かをやらなくて済む。患者さんにとつて病院に来ると言ふ楽しくない体験、その中で待つ時間が少なくなる。あとは会計後には薬を家に届けるシステムも検討していく、患者さんが予約もスマホできて待ち時間も見えて、終わったら会計しないで(登録されたクレジットカードで決済)帰れば、院内で過ごす時間は少くなる。あとは会計後

けじゃないですか。昔は手段がなかつたから不安だろうが痛からうが苦しむらうが家で亡くなつた。でも今はすぐ病院に行く、それが本当に幸せな最期なんだろうかと。だったら家にいても不安とか苦しいとかそういうのがないっていう社会が実現できるといいよねつて。

——でも遡ると、ADLが落ちるとか食べられないとかって、後からだと姑息的な手段しかない。でも前の段階で見つかれば根本的に介入できる可能性がある。例えばフレイルをどのタイミングでひっかけてデジタルで改善できるか、ある企業さんとガムでオーラルフレイルを見るっていうプロセスで、家で見守ることで病院とか施設とかに行かなくてもその人の望みを叶えられる一連の流れが、茅野市がやりたい世界ですね。

——高齢者も使いやすいものにUIを変えていかなければと思つています。

須田 予約から支払いまでスマホができるシステムの導入を検討中です。これは電子カルテのシステムと連携していて、患者さんが予約もスマホできて待ち時間も見えて、終わったら会計しないで(登録されたクレジットカードで決済)帰れば、院内で過ごす時間は少くなる。あとは会計後

——諏訪中央病院のDXとしてはどのような変化が今後起きますか

須田 予約から支払いまでスマホができるシステムの導入を検討中です。これは電子カルテのシステムと連携していて、患者さんが予約もスマホできて待ち時間も見えて、終わったら会計しないで(登録されたクレジットカードで決済)帰れば、院内で過ごす時間は少くなる。あとは会計後

——DXで良くする課題はどのよう選んでいますか

須田 茅野市はデジタルの力を使って、退院しても入院と同じように見守られているような状況を作りたいと思っています。この高齢社会の中で、みんな病院とか介護施設で亡くなるわ

——DXで良くする課題はどのよう選んでいますか

須田 茅野市はデジタルの力を使って、退院しても入院と同じように見守られているような状況を作りたいと思っています。この高齢社会の中で、みんな病院とか介護施設で亡くなるわ

化していく可能性もあって、それをやるにはどうしても効率化・省力化しなければいけない、その手段としてデジタルがある。折しも国がDXを進めようとしている流れがあったので、茅野市も乗っかっていこうかと。です。今まで1時間に1本しかないバスに乗客は数人以下、しかも維持費が数億円かかっていた。どうした

方が変わるのでしょうか

須田 分かりやすいのは「のらざあ」です。今まで1時間に1本しかない

バスに乗客は数人以下、しかも維持費が数億円かかっていた。どうした

方が変わるのでしょうか



小説やエッセイが好きという越家さんは、月に1~2回ほど当番を担当。ときには庭を眺めながら利用者さんとおしゃべりも…



アートも素敵に貢献してくださっていますが、高齢による引退な

アートも素敵に貢献してくださっていますが、高齢による引退な



小さな子どもたちがお母さんお父さんと、全集中で楽しんでください。



病院の
「かわいい場所」
発見！
図書室

図書室は、診察の待ち時間や入院中に読書を楽しんでもらえたらと、2005年4月、外来研修棟の改築に合わせてオープン。1000冊以上に及ぶ蔵書は、すべて患者さんや地域の方々から寄贈いただいたもので、書棚は「実用書」「小説・エッセ

内科外来の広い待合スペースを抜け、歯科口腔外科や外来リハビリ室に向かう途中に陽光がやわらかく注ぐつるぎの空間があります：そこが図書室です。

「子どもの本」「病気の本」に分かれています。「ぐりとぐら」「おにたのぼうし」「モチモチの木」などの絵本、鎌田實名著院長の「がんばらない」「大・大往生」などを筆頭に、まさにがんばらなくてもいい、難しくないラインナップが特徴で「気

図書室



図書室



世界糖尿病デーイベントを行いました

2023.11.14

world diabetes day



コロナ禍前までは毎年開催していたこのイベント、数年間思うように開催できませんでしたが、昨年ついに復活いたしました！

世界レベルで見ても患者数の増えている糖尿病を一人でも多くの方に知つていただくこと、また糖尿病に関するいわれのない偏見を少しでも取り払おうという目的で開催しました。

事前の宣伝効果もあってか当院かかりつけではない方にも足を運んでいただく貴重な機会となりました。今までと同じ血糖測定のブースに加え、体力測定を今話題のフレイルと関連付けたものにしました。

また、患者さんが持つ糖尿病への想いを川柳にのせる「すわちゅう糖尿病川柳コンテスト」を初めて企画しました。病院内の回収ボックスと病院ホームページからインターネットでの応募もあり、たくさん候補の中から院長賞など3つを選出させていただきました。

多くの方の協力を得て、少しでも糖尿病を考えるきっかけになる時間が作れたのではないかと感じています。ご参加いただいた皆様と協力していただいた職員に感謝申し上げます。ありがとうございました。

すわちゅう 糖尿病川柳コンテスト 2023



ブルーサークル賞
まかせて腹は
P N ..
食欲に
P N ..
library guide



認定看護師賞
ハイキング
P N ..
妻の目と
P N ..
帰りに食べる
P N ..
暮らしに
P N ..
箸をおく
P N ..
まかせて腹は
御嶽海
P N ..
み人知らず
P N ..
ハイキング
P N ..
まーきん



院長賞
ハイキング
P N ..
暮らしに
P N ..
箸をおく
P N ..
ハイキング
P N ..
まーきん



どの川柳もその方が日常が垣間見え、あたたかい気持ちになりました。また甲乙つけがたく選出にとても苦労しました。他作品は当院ホームページに掲載していますので是非ご覧ください。

たくさんのご応募ありがとうございました。ここまで読んでくださったそこのあなた！次回はご応募お待ちしています。

鍼灸師のつぶやき

鍼灸師 伊藤 美咲
じゅうし いとう みさき

医療現場の束の間のひとこと



内科系診療部長補佐 兼 呼吸器内科部長 鈴木 進子さんの回

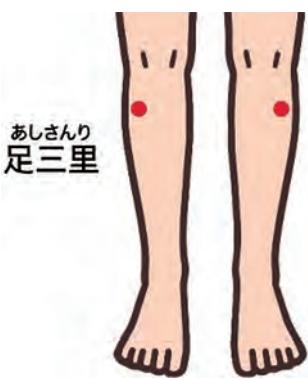
お正月はいかがお過ごしでしたか？食べ過ぎや飲み過ぎでお腹が疲れてはいませんか？東洋医学には『臓腑』という考えがあります。臓腑は皆様がご存じの臓器とは少し違い、身体の働きを司るもの指します。臓は肝・心・脾・肺・腎の5つ、腑は胆・小腸・胃・大腸・膀胱・三焦（心包）の6つ。

実はこれがよく言う『五臓六腑』の正体です。それぞれに特性や働きがあり、互いに影響を与え合っていると考えられています。例えば、脾と胃は消化吸収や栄養を全身に送り出します。食べ過ぎや飲み過ぎは脾と胃を弱らせ、腹痛や倦怠感などの原因になります。したがって、お正月にたくさん食べて弱つた脾と胃のために消化の良い七草がゆを食べる風習は理にかなっています。また臓腑のバランスが崩れると他の臓腑の不調につながることもあるので注意！

今回は脾と胃と健康のために食事の他にできるセルフケアをご紹介いたします。暴飲暴食後の胃もたれや日々の健康のためにぜひ取り入れてみてくださいませ。

松尾芭蕉も旅の際に お灸をしていたと 言われる有名なツボ 免疫力UPも期待！！

ツボ：足三里
膝のお皿の下から指4本分、
すねの骨の外側



痛気持ちいいくらいの強さで押す
もしくは
爪楊枝の尖っていない方で
ツンツンする

医師21年目で、当院には2013年12月に赴任。昨年11月に発足したコロナ診療対策室の室長も務められています。感染症法の5類に分類されて以降は、ニュースにならないだけでコロナは決して鎮静化したわけではありません。暴飲暴食後の胃もたれや日々の健康のためにぜひ取り入れてみてください

康な方には“ちょっと大変な風邪”くらいでも、基礎疾患を抱えた方にどうして、まだ大きな脅威です」患者さんやスタッフを感染から守りつつ、日常診療もしっかりと行うために、多職種で協力し合って院内の診療体制等を調整しているそうです。

そんな鈴木先生、ここ数年の昼食は、ほぼパンだということで、この日も美味しそうな2種類のパンを用意されました。甘いパンもお総菜パンも好きで、行きつけのお店の新作を試すのを楽しんでいるんだとか。取材中もいい香りが漂っていました。

多忙な鈴木先生ですが、オフの時間は、笑える番組やコンテンツを観てストレスを発散したり、動物が好きで生き物たちに密着して紹介する番組を観ては癒されているそうです。いつか保護猫、保護犬に関わることをしたいなあと考えているとのこと。また、アルコールには弱いですが、最近はノンアルコール梅酒の美味しい

とにハマリ、時々夕食と一緒に飲んでは非日常の特別感を味わっているそうです。

好きな言葉と聞かれて思い出すのは、「面白きこともなき世を面白く住みなすものは心なりけり」という高杉晋作の辞世。司馬遼太郎の「竜馬がゆく」に、「上の句を詠んだ高杉が下の句に苦吟していると、看病していた野村望東尼が下の句を詠み、それを聞いた高杉はうなずいて、『…面白いのう』と黙って静かに眠った、それが最期だった…」という場面があり、心中に残っているそうです。「そんな崇高な志はなかなか持てず、実践はできませんが…」と控えめに話す

鈴木先生でした。

新年を迎え、寒さも一段と厳しくなってきました。引き続きコロナ等の感染予防は忘れず

に、楽しい時間過ごしていきたいですね。素晴らしい1年になりますように。



MEDI
MESH
メディメン…「メディカル・スタッフ(医療従事者)のご飯」の略

医療の現場は日々忙しいイメージ。そんな中でのお風ごはんのひとときにお邪魔し、色々な角度から人物像を探るコーナー。



MEDI



MESH